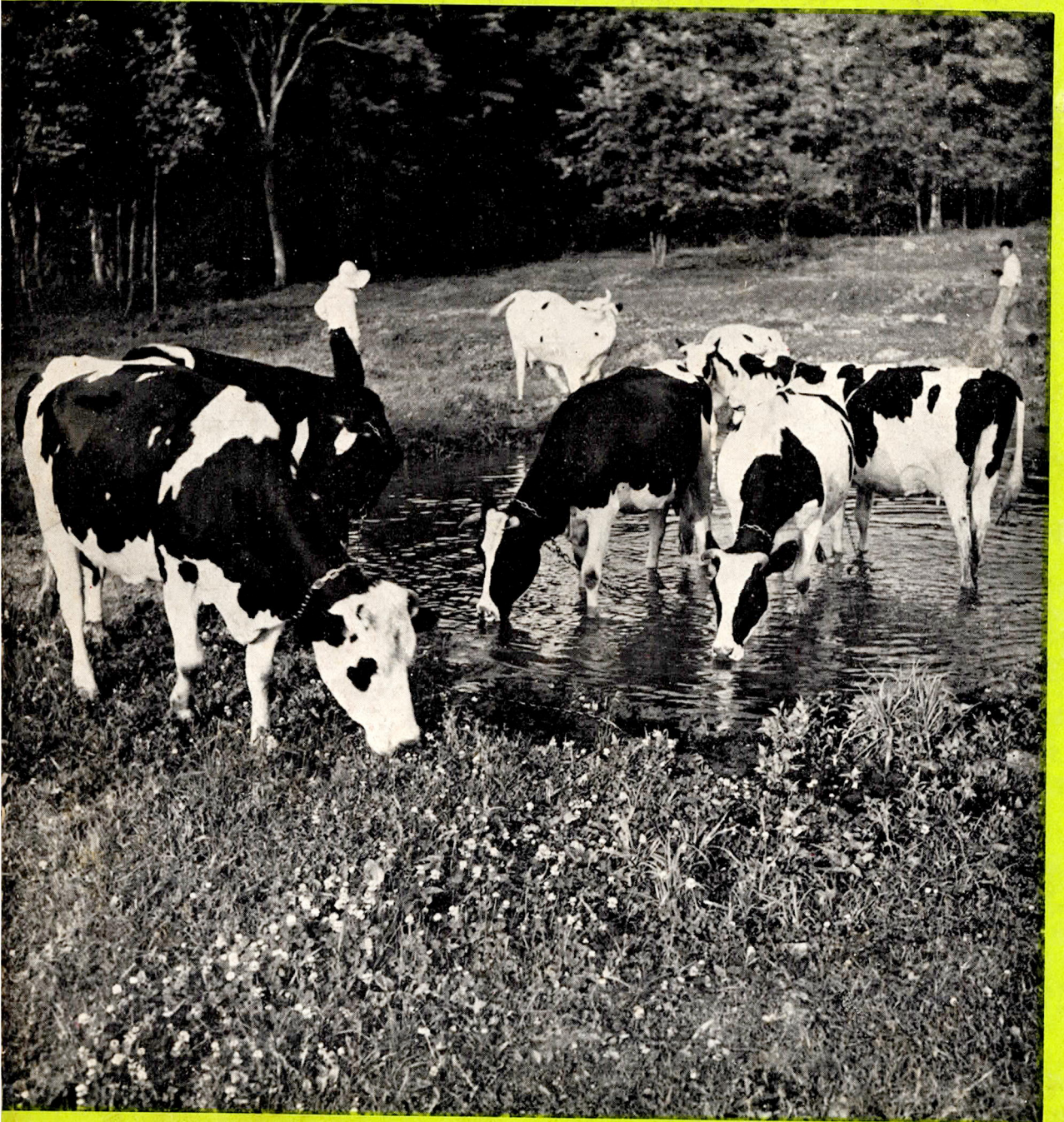
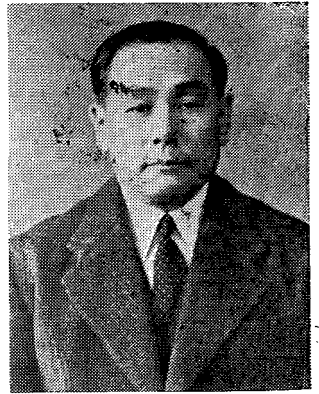


# 牧草園藝







# 歐米の山野を旅して

町村敬貴

昨年の秋からこの春にかけて数カ月の間、私は欧州各國と米大陸で泥炭地開発と治山治水の状況を調査して最近帰つたが、わが日本国の現状と対比するときに感慨深いものがある。

日本の農業は平地農業ともいべきで、たとえ山地の利用にしても石垣畑や田毎の月で有名な階段式の水田といふように、田畑の大小は別として平面耕作である。これは米つくりから始つた農業であるためであらう。これに反して欧米の農業は牧畜が骨格をなしてゐるから、山地は山肌そのものを、谷間は谷間の姿で農業生産に良く利用しつつささかのムダもない。

日本の耕地は国土面積の一割五、六分に過ぎない。八割以上を占める山野河川地の地積は食糧生産資源として活用されることが甚だ乏しい。しかも食糧不足は国の最も大きな悩みであるとはなんたる事ぞと言いたい。欧米の山々は高山はいざ知らず、林木と牧草と家畜とが共存共栄、協力一体の姿を現している。山肌はクローパー、イタリアンライグラス等の若草によつて包まれている。

春から秋まで家畜はこれら滋味に富む若草を追つて林間を逍遙し、陽だまりのスロープに休息しながら幼畜は肥大成長し、成畜は生産を挙げている。春から秋までの搾乳と乳製品の製造は山で行われ、冬枯時に平地に下りて来る。だけを生産すれば足りるよう、山と家畜との仲良しぶりが羨ましい。またクローパー等の葎料牧草が空中窒素を固定するゆえか、家畜の糞尿のためか、林木はスタックと伸びて、家畜に林野が荒されるという声を聞かない。これはまた山も木も草も家畜も皆大事なもの、可愛から管理に心が届いているせいでもある。

話は南米のチリに移るが、チリ国は日本のごとく細長い国で山が多い。しかし日本は湿度で草伸びが良いのに反しチリは乾燥して草伸びが悪い。チリも従来は食糧不足で、その五割も輸入にたよつていた。しかるに

これではいけない。国土の総合開発によつて解決すべきであるとの強い輿論が起り、かつてわが国の満州開発の中心となつた満鉄のごとき強力な開発会社が生まれ、その会社が北米より機械と技術を導入し、山間にダムを構築して産業を起し、その水を畑地や牧草地に灌漑する事業や機械力による農地改良事業等をも積極果敢に行つた結果は、十年ならずして食糧を完全に自給したのみならず、国力を充実して、今では輸出するまでになつた。私はこの国の牧草畑に足を踏み入れたが、見事なアルファルファが到る迄に繁り、年に六回も刈取るようになったという現実に触れて羨望に堪えなかつた。

国土総合開発の実施や農業の基本計画をいうものは、政府の替る度毎に替つたり、政党政派の具に供したり、選挙対策等に利用されるべきものでは断じてないものである。民族興隆発展の基盤を築く大事業であるから、半官半民の強力誠実有能な会社をつくり、事業の一切を委せて政府と国民は会社に支援と協力を惜しまない輿論が国中に漲つてゐるようになれば成功しないと思ふ。

北海道の未利用泥炭地は今なお二十万町歩あり、うち可耕地が十六万町歩もある。しかもその過半は道内で最も気候の良い石狩川の流域にあつて平坦そのものである。これが開発利用は、いかに国富を増すかしかない。府県でも岩手山麓、那須山麓、八ヶ岳山麓、富士山麓、阿蘇山麓等々の開発から大小数知れぬ河川敷地堤防等食糧生産資源が乏しいなど言へたものではないはずである。オランダの海底旱拓、スイスの山岳農業その他各々の努力の結晶に接するときに、国民の奮起を願わずにはいられない。

結論は機械力と技術の導入による国土の総合開発と、農業を基盤とした産業の振興にあり、農業は米麦園芸同等以上に山野を牧草化して有畜經營を合理的に営む以外に民族発展の途はないと思ふ。

(筆者は元参議院議員・町村牧場主)

## 牧草と園藝 五月號

### 目次

◇表紙題字……………北海道農藝會々頭 星野勇三氏

◇表紙写真……………水ぬるむ頃

(北海道農藝會々頭星野勇三氏作品)

◇欧米の山野を旅して……………町村敬貴

◇ダーリアの栽培……………原 秀雄…一

◇素晴らしい暖地向牧草のはなし  
イタリアンライグラス……………安孫子六郎…四

◇葡萄の害虫フィロキセラと  
その免疫砒について……………奥井安吉…六

◇果樹栽培発祥地としての  
道南……………舟茂宣雄…八

◇二化螟虫に対するホリドールの  
効用について……………遠藤和衛…九

◇家畜南瓜の特性と  
その栽培・利用法……………中野富雄…二